# 「バリアフリーフェスタかながわ2022」の総括

資料１

## １　目的

　神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議（以下「県民会議」という。）では、障がい者、高齢者、妊産婦、乳幼児連れの方などが安心して生活し、自らの意思で自由に移動し、社会に参加できる街づくりを進めている。

　その一環として、県内の障がい者等の関係団体や事業者・ＮＰＯ団体、県民からの公募委員、行政の協働により、「バリアフリーフェスタかながわ2022」（以下「フェスタ」という。）を開催した。

　１～４回目は相模原市内の商業施設にて開催し、５回目は横浜市の大学構内の施設に開催場所を移し開催した。８回目となる今回は６～７回目同様、横浜市内の商業施設で開催した。

　このフェスタは、県民会議内に設置された実行委員会が企画・立案したもので、その目的は、県民会議が取りまとめた提案書を広く県民に周知するとともに、バリアフリーの街を体感してもらうことで、バリアフリーの街づくりに対する理解を深めていただくことにある。

〔企画・立案に当たっての考え方〕

* 県民会議の理念に基づき、県民・事業者・行政が協働で実施する。
* 継続的にフェスタが開催できるよう、持続的かつ安定的な開催形態を意識して準備を進める。
* 県民から広く意見を募るよう、開催会場は誰もが自由に参加できるような場を設定する。
* 当事者団体・事業者団体からの参加を積極的に促す。
* 県民から多くの意見をもらえる形式とする。
* 来場者が気軽・身近に感じられる参加型・体験型の内容を中心としつつ、来場者が「大変だね」「かわいそう」では終わらない、バリアフリーの必要性、支えあいの心を自然と身につけるものとする。
* ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、来場者の誰もが安全・安心に参加できるように配慮したイベントとする。
* フェスタ全体で統一的なテーマを設定して、各団体のコーナー運営に取り入れる。
* 新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえて、消毒や、密にならないコーナー人員数など、感染症対策をしっかり行った上で安全に実施する。
* 何が障害を作り出しているのか、自分達に実際にできることは何か、など気づきを与えられるような工夫を各コーナーや事務局コーナーなどで行えるよう、意識して工夫を図る。

## ２　概要

(1) 日時

令和４年11月５日（土）　11：30～17：00

(2) 場所

横浜新都市ビル（そごう横浜店）９階センタープラザ、新都市ホール、

新都市ホールホワイエ（横浜市西区高島2-18-1）

(3) 主催

神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議

構成：学識経験者(4)、障がい者団体(7)、関係団体(3)、事業者(8)、公募委員(2) 計24名

(4) 内容

　ア　テーマ「だれひとり取り残さない、ともに生きる社会に向けて　～バリアフリーとSDGｓ～」

イ　県民会議構成団体を含む16団体が13コーナーを企画し、運営

ウ　スタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーの実施

〔スタンプラリーの達成条件〕

エ　コーナー３か所以上のスタンプをスタンプラリー台紙に集める。

オ　上記に加えて、アンケートへの回答を景品引換の達成条件とする。

カ　同日、県主催の介護フェアinかながわが開催され、スタンプラリーの周るコーナーと設定するなど相互の乗り入れを図った。

(5) 参加者数　※〔　〕は前回の数字

ア　コーナー参加者数　851名〔1,449名〕（各団体でカウントした参加者の合計人数）

イ　スタンプラリー達成者数　159名〔 262名〕

　※前回（2019年度）の約60％となったが、コロナ前の前回よりデパート人出自体が少なく見受けられたことや、介護フェアの一部イベントがコロナ対策でオンラインだったため出足に影響を及ぼしたと考えられる。

## ３　アンケート結果・分析

(1) 来場者向けアンケート

　　　来場者へのアンケート結果は別添のとおり。来年度に向けた分析は下記。

　　ア　一番多いのは50代の23.9％、２番目は40代の19.5％で、中年世代が多かった。介護フェアと同時開催だったことも影響していると思われる。なお、前回と比べて10代、20代の来場者が多く見受けられた。これは介護フェアも当イベントもともに専門学校への働きかけを行った効果もあると思われる。

　　イ　来場のきっかけとしては、「家族、友人、知人」が最も多かった（25％）。

(2) 実行委員会向けアンケート

　　　実行委員へのアンケート結果は別添のとおり。その中から主な意見の分類分けを行い、課題を抽出した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 分類 | 内容 |
| １ | 目的・考え方 | ・このフェスタは、県民会議の存在と目的、取り組み、これまでの成果を知ってもらうことで、バリアフリーのまち作りに関心を持つ人を一人でも増やすことが目的だと思っています。そうであれば、今後もしっかりと広報を続けていく必要があります。今年は若い来場者が目につきましたが、来年はもっと来てくれるようにしたいです。 |
| ２ | 開催日時 | ・実施日を日曜日に行ってほしい |
| ３ | 開催場所 | ・人がたくさん集まる場所での開催は、一般の方を呼び込めるので良いと思いました。ただ、９階なので、レストランに行く人ぐらいかなと思いました。   * 集客の工夫さえできれば、とても良い場所だと思います。   ・次回もそごう横浜店９階が良いです。   * できればそごう１階などで開催できると、もっと一般の人が足を止めてくれるかも。 * 横浜駅という場所で、とても分かりやすくていいと思います。 * 大人が多く、子どもたちが参加しにくい場所かもしれません。   ・建物(そごう)自体は駅から近くて外を歩くことなく行くことができるので大変便利だが、9階まで行く必要があるため、通りがかった人たちに来てもらうという面ではちょっとマイナスである。以前開催した、アリオ橋本や新しい商業施設等のような、同線の良い(通りがかりの方が気軽に体験できる)商業施設の方がより多くの一般県民に来てもらえるのではないかと思う。 |
| ４ | 集客・周知 | * 全体運営の誘導（集客）は、そごう玄関（地下2階）など、人の流れが多いところに多く配置し、より多くの一般客に声掛けすべきと思いました。（今回、会場前に配置されましたが、会場前は不要と思います。）   ・当日の東急改札口でのチラシ配布は、なかなか受け取ってもらえず厳しかったです。 |
| ５ | 事前準備 | ・コロナ情勢もあり準備を慎重に進めたこともあったかもしれませんが、チラシ、ホームページ等の広告はもう少し早めに準備した方がよいかと思いました。   * 広報のプロジェクトチームを構成して、広報を強化したことは良かったと思います。他の分野でも必要であれば、積極的にプロジェクトチームを構成して、より突っ込んだ企画ができると良いと思いました。 |
| ６ | 運営体制 | ・毎回有名人の方を招いてのイベントが終わると会場の人が一気に減ってしまうので、集客が見込めるイベントを後半にまわすなどの工夫が欲しいと思います。  ・今回体験スペースが小さく、体験コーナーと感染症対策消毒スペースを確保するのが難しかった。もう少し広いと有難いです。   * 設営や撤収の時間がわかりにくい状況であった * 最後のほうはコンサートに多くの人が行っていたので１６時終了でも良いのではないかと思った。 * 業者と手伝いの部分がわかりにくいので、事前にすみわけしておくと良いのではないか * 黒いスーツの人が入り口に多数いると入りづらいので配慮してほしい   ・介護フェアのトークショー・講演の間はお客様の動きがなく、ブースはさみしい状態だった、また終了30分前(16時30分前後)は体験者も少なく殆どお客がいない状態でした。その様な時間をどうするか考える必要があると思う。 |
| ７ | 同時開催 | ・コーナーを訪れた参加者のなかにも、介護フェアが目的で来場していた方たちも多くいらっしゃったので、このような同時開催はとても良いと思いました。  ・今年はホール内とロビーに完全に分かれたせいで、二つの催しの雰囲気の違いが明確になりました。広報面や予算面でメリットがあるなら今後も同時開催でいいと思いますが、のぼり旗のデザインやブースの構え方等どこかを揃えて一体感を演出しないと、来場者は違和感を覚えると思います。  ・単なる同時開催ではなく、企画や広報などの準備から一緒に検討できれば良いと思います。   * 介護フェアの紹介ブースと、こちらは、体験型であり趣が違っていて、良かったと思います。他イベントにいらっしゃるお客様との交流できてよいと思います。   ・同時開催イベントが介護フェアということもあり、年齢層も比較的高く、子供や若者が少なかったのは残念である。若者や子供またはコンセプトの違うイベントとの同時開催の方が、参加者の層が違い、有効的で相乗効果が大きいと思われる。 |
| ８ | 良かった企画や工夫 | ・カラーバリアフリー、車いす体験、ガイドヘルプ体験。体験を伴うと、より印象に残りやすいです。  ・体験型は、実際と近いイメージができるので効果があります。  ・皆さんそれぞれに、啓発のために会場全体の方たちと触れ合えていたことが良かったと思います。  ・スタッフが着用したピンクTシャツは周知や理解してもらう、きっかけ作りになっていたと思われる。 |

## ４　対応策

(1) 目的・考え方、開催場所

　　引き続き、商業施設等で開催することで、普段、バリアフリーになじみの薄い方や若者等にも参加してもらえるように、当日の周知等を工夫する。

(2) 集客・周知

　　誘導係の配置場所やチラシの配布場所について意見があった。当日のより効果的な集客方法について検討する。

　　また、今年度は「家族、友人、知人」がきっかけとなり、参加された方が増えていたため、県民会議構成団体をはじめとしたフェスタ関係団体間で連携を取り、より周知を強化する。

　　広報については、実行委員の中の有志によりプロジェクトチームを結成し、フェスタのさらなる認知度向上を目指して各マスコミ等に訪問するなどの活動を行った。

　　来年度も引き続き、活動を行い、今後はより若い世代に向けて周知できるように専門学校との連携等についても検討する。

(3) 事前準備

チラシやホームページの作成について、より早い時期に行えるよう調整する。

(4) 運営体制

集客が見込めるステージイベントを後半にまわすなどの工夫について検討する。

また、会場入り口の堅苦しい雰囲気の改善について意見があった。気軽に来場しやすい雰囲気づくりについて検討する。

近くに会場の出店を設けるような工夫や、体験型のブースを増やす検討など、感染防止対策を取りつつ、多くの方に参加していただけるような、効果的な運営方法について検討する。

(5) 同時開催

　　同時開催に好意的な意見が多くあったが、イベント内容の共有や同時開催イベントとのさらなる連携を検討する。

(6) 良かった企画や工夫

良かった企画や工夫として、体験型の企画が多く挙がった。来場者からのアンケートにおいても、体験に関する感想が多くあったので、体験型のコーナー参加を通じ、バリアフリーの街づくりへの理解を深めて頂き、周囲で出来る配慮について身につけてもらえるよう引き続き努める。